

手をつなごう2007

平成20年2月25日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 33

ネットワーク合同会議

分科会報告

備前・和気

まず、障害のある方が不審者と間違えられてトラブルになったり、お金を貸してもらったりするなど、警察にお世話になったことが話題になりました。そのような時に「障害があるから配慮して欲しい」ということを前もって地域の皆さんに知らせておくのは個人情報の面で難し

いところがあるため、次のような意見が出ました。

- 互いの情報交換の場にこのネットワークが使えないか。
- 備前市社協では出前講座をしているので授業で体験学習等を行い意識付けができないか。
- また、地域の障害のある方のことを親が子どもにどのように説明すればよいか、幼稚園と小学校の連携を密にしていく必要があるなどの話題も出ました。
- 結論がすぐに出る話ばかりではありませんが、問題のある事例でケース会をもつだけでなく、関係機関相互の情報交換の場としてもこのネットワークを活用していきたいという確認をしました。

まず最初に瀬戸内市自立支援協議会としての活動報告が地域生活支援センタースマイルよりありました。

その後の、情報交換では次のような話題が出ました。

- 社会福祉協議会では小学生に障害の疑似体験をしてもらっている。小さいときから障害者がどういうことに困っているか知ってもらいたいので、利用して欲しい。
- 大人の引きこもりが増えている。社会人になった発達障害の方の2次障害も深刻な問題。
- 育成会では先日、相談員に相談事例について話してもらった。あんな問題があるんだなあ、こんなことで相談していいんだなあと思ってもらえるような研修会になった。
- 生徒指導や虐待関係などいろいろなネットワークがあるが、ネットワークが重なる部分についてどう連携がとれるか考えていかねばならない。
- 幼児教育の現場では、発達障害が増えているという実感がある。保護者が診断を受け入れられないことも多い。

瀬戸内

赤松

各機関の具体的な取り組みや課題の情報交換をしました。

主に次のような話題が出ました。

- 作業所から一般就労したいという希望が多くなってきている。知的レベルが高い方の相談が増えている。
- 就労が続かない25歳から30歳の方の中には発達障害と思われる方もいる。岡山県の場合はIQが75以下でないと療育手帳が取得できないので、精神保健福祉手帳を医療機関を通じて勤める場合もある。
- 発達障害幼児支援として発達障害支援センターから年間5回来ていただき、気になっているお子さんの保護者にも声を掛け、療育ではなく、療育的要素が入った発達観察をさせていただいて保護者支援をしている。
- 特殊教育でなく特別支援教育という名称になったため、園や学校にお願いしやすくなった。しかし、対応に関して「ここが気になる」ということがなかなか言いにくい。
- 療育手帳がないが、問題を抱えている中学生・高校生の発達障害の方についての相談が増えている。

各地域とも熱心な話し合いが行われました。このような会を2年3年と積み重ねていくことの大切さを感じました。来年度もよろしく願いいたします。